

複合構造物の性能照査指針（案）

正誤表

ページ	行数(図表番号)	誤	正																												
28	解説表4.3.2	<p>記載した表は、PC鋼材の耐力の規格下限値を示す表である。ただし、PC鋼棒の欄だけは引張降伏強度の数値を記載しており、単位がkNは間違いでN/mm²が正しい。</p> <p>なお、今回、訂正するにあたって、解説図4.3.1が引張強度をパラメーターとして応力 - ひずみ曲線を与えていることを勘案し、以下のように引張強度の規格下限値の表に替えることにする。</p> <p style="text-align: center;">解説表4.3.2 PC鋼材の引張強度の規格下限値 (N/mm²)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>鋼種</th> <th>記号</th> <th>呼び名</th> <th>強度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">PC鋼線</td> <td rowspan="4">SWPR1および SWPD1</td> <td>5mm</td> <td>1,620</td> </tr> <tr> <td>7mm</td> <td>1,520</td> </tr> <tr> <td>8mm</td> <td>1,470</td> </tr> <tr> <td>9mm</td> <td>1,420</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">PC鋼より線</td> <td rowspan="3">SWPR2 SWPR7A SWPR7B</td> <td>2本より</td> <td>1,930</td> </tr> <tr> <td>7本より</td> <td>1,720</td> </tr> <tr> <td>7本より</td> <td>1,860</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">PC鋼棒</td> <td rowspan="2">SBPD1080/1230 SBPD1275/1420</td> <td></td> <td>1,230</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1,420</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">注) PC鋼線ならびにPC鋼よ線の強度は、引張荷重のJIS規格下限値を公称面積で除して表記。</p>	鋼種	記号	呼び名	強度	PC鋼線	SWPR1および SWPD1	5mm	1,620	7mm	1,520	8mm	1,470	9mm	1,420	PC鋼より線	SWPR2 SWPR7A SWPR7B	2本より	1,930	7本より	1,720	7本より	1,860	PC鋼棒	SBPD1080/1230 SBPD1275/1420		1,230		1,420	
鋼種	記号	呼び名	強度																												
PC鋼線	SWPR1および SWPD1	5mm	1,620																												
		7mm	1,520																												
		8mm	1,470																												
		9mm	1,420																												
PC鋼より線	SWPR2 SWPR7A SWPR7B	2本より	1,930																												
		7本より	1,720																												
		7本より	1,860																												
PC鋼棒	SBPD1080/1230 SBPD1275/1420		1,230																												
			1,420																												
42	式(解6.4.1)	<p>終局耐力(A, B, C, Dタイプ共通, スタッドのタイプは解説図6.4.1による)</p> $V_{sud} = \left(31A_{ss} \sqrt{(h_{ss}/d_{ss})f'_{cd}} - 22000 \right) / \gamma_b$ <p>あるいは、 $V_{sud} = 0.7A_{ss}f_{sy}$ のうち小さい方 (解6.4.1)</p> <p>ただし、$h_{ss}/d_{ss} > 4$ ここに、 V_{sud}: スタッドの設計せん断耐力 (N) A_{ss}: スタッドの断面積 (mm²) d_{ss}: スタッドの軸径 (mm) h_{ss}: スタッドの高さ (mm) f'_{cd}: コンクリートの設計圧縮強度 (N/mm²). ただし、ここでは $c=1.0$ として設計圧縮強度を求めてよい。 f_{sy}: 0.2%永久ひずみ時のスタッドの引張応力 (N/mm²). JIS-B1198「頭付きスタッド」で規定されているスタッドの場合、350N/mm²としてよい。 b: 部材係数. 一般に1.3としてよい。</p>	<p>終局耐力(A, B, C, Dタイプ共通, スタッドのタイプは解説図6.4.1による)</p> $V_{sud} = (31A_{ss} \sqrt{(h_{ss}/d_{ss})f'_{cd}} + 10000) / \gamma_b$ <p>あるいは、 $V_{sud} = A_{ss}f_{sud} / \gamma_b$ のうち小さい方 (解6.4.1)</p> <p>ただし、$h_{ss}/d_{ss} > 4$ ここに、 V_{sud}: スタッドの設計せん断耐力 (N) A_{ss}: スタッドの断面積 (mm²) d_{ss}: スタッドの軸径 (mm) h_{ss}: スタッドの高さ (mm) f'_{cd}: コンクリートの設計圧縮強度 (= f'_{ck} / c) f'_{ck}: コンクリートの圧縮強度の特性値 c: コンクリートの材料係数 (=1.3) f_{sud}: スタッドの設計引張強度 f_{suk}: スタッドの引張強度の特性値(たとえばJIS規格値) s: スタッドの材料係数 (=1.0) b: 部材係数 (=1.3)</p> <p>補足) この変更については、2006年1月発行の「複合構造物の性能照査例」(土木学会)の中の「共通編 4. ずれ止めの耐力照査式について」を参照されたい。</p>																												

43	5,7,8行目	V_{suo}	V_{sud}
73	式(解6.2.22)	$M_{u,min}$	$M_{tu,min}$
88	下から13行目	<p>構造物が設計供用期間中に十分な使用性を保持するために、一般に変動荷重による構造物の騒音・振動が周囲に及ぼす環境を検討しなければならない。</p>	<p>構造物が設計供用期間中に十分な使用性を保持するために、必要に応じて、変動荷重等による構造物の騒音や振動が周囲の環境に及ぼす影響を適切に検討しなければならない。</p>